

## SPECIAL SESSION 02

北海道新幹線開業PR動画レポート  
53,850個の  
ドミノがつなげた  
学生たちの絆。

2014年9月17日、北海道新幹線開業の機運を盛り上げるPR動画制作のためのドミノ大会が行われました。会場となった北斗市総合体育館に張りつめた緊張感の中、青函地域の学生たちが作ったドミノは来場者の期待とともに会場を駆け抜けました。



## はじめてのドミノ。期待と不安が情熱に。

この大会で使われるドミノの数は、青函トンネルの長さ53,850メートルにちなんだ53,850個。参加した学生たちは、題材から仕掛けまで、全て自分たちで試行錯誤するという大きな課題に立ち向かいました。北海道新幹線沿線の5つの地域のチームに分かれた学生たちは、それぞれの地域をPRする題材を選び、それをモチーフにした仕掛けを制作します。ドミノ倒しは、仕掛けを考えて実現させるための創造力と企画力、実際に制作する時の集中力と忍耐力、そして仲間と共に作り上げるのに必要な協調性など、実際に様々な要素が求められます。北斗市をテー

マにドミノを制作した「ゆらり水旅!!」チームのリーダー宿田さとりさんは「アイデアを形にするのが楽しかった。なかなか上手く行かないこともありました。『考えて実行する』という工程が楽しかった」とドミノの楽しさを話し、木古内町のドミノを制作した「SEAPORT」チームのリーダー福士優介さんは「何度も調整して万全を期しても思わぬ所で失敗する。一度成功したら終わりではないのがドミノだと感じました」と難しさを語ります。楽しさを追求すると難しくなり、それが楽しさにつながる。学生たちが過ごした3日間はとても濃密なものとなりました。



監修を務めた日本ドミノ協会の佐藤正光理事長

## いよいよドミノ大会本番。はたして結果は…。



ドミノは、青森、木古内、函館、北斗、七飯の5チームのほか、こけしを新幹線で運ぶ「津軽こけし北海道へ」、青函トンネルを連想させる「水槽ドミノ」、スルメをドミノに見立てて倒す「イカす!大漁ドミノ」、進むドミノと共に虹かかる「虹の架け橋ドミノ」、「どこでもユキちゃんと沿線ご当地キャラクタードミノ」をクリアして、最後の新幹線開業告知でゴールを迎えます。



会場には道教育大学函館校の吹奏楽団、はこだて未来大学のダンスチーム「ダンスサーフィー」や各市町のキャラが応援に駆けつけました。

## 学生5チームが北海道新幹線沿線地域の魅力をドミノで表現。

青森から青函トンネルを抜け、北海道に上陸した新幹線は、道南の各地を通過して新函館北斗駅に到着します。参加した学生たちは北海道新幹線沿線地域の特徴を題材にドミノを作成。駆け抜けるドミノは、まるで一幅の絵のように地域の魅力を表現します。



## SEAPORT

- テーマ／木古内
  - タイトル／サラキ岬と咸臨丸
  - 函館工業高等専門学校&青森大学
- 木古内町サラキ岬沖で沈没した咸臨丸の復活と、町のマスコットキャラクターの「キーコ」をモチーフに。

## 函館大学

- テーマ／函館
  - タイトル／サラキ岬と咸臨丸
  - 函館大学
- 函館山、夜景、ロープウェイ、市電、五稜郭。「函館といえば」で連想した題材を凝縮させた仕掛け。

## 青森(aodate)

- テーマ／青森
  - タイトル／ワッショイ青森
  - はこだて未来大学&弘前大学
- 弘前のりんご、大間のマグロ、青森のねぶた、青森を代表する3つの有名な物産を題材に制作。

## いくぜ我らがfreedom

- テーマ／七飯
  - タイトル／大沼の自然を満喫しよう!
  - 北海道教育大学函館校&弘前大学
- 大沼の豊かな自然や、四季を通して楽しめる様々なアクティビティをモチーフに仕掛けを制作。



安定したスピードで本線を進む緑のドミノ、その姿はレールを走る新幹線を連想させます。各地域を表現した様々な仕掛けをクリアするたびに、客席や学生たちから上がる歓声。そして悲鳴にも似た声。参加した学生は一様に「仲間との絆が深まった」と話してくれました。ドミノがつないだ学生同士の人間関係、そして沿線地域が持つ数々の魅力。新幹線という新たな移動手段は、これまで無かったつながりを生み出し、それは青函交流の次の時代への幕開けとなるはずです。



完成したPR動画はこちら！

北海道新幹線開業NAVI 検索  
<http://hokkaido-shinkansen-navi.jp/>